

施設リスト



私たちは眼科専門医として、レーシックを行う施設として、患者様の生涯の目の健康と向き合っていくことを責務と考えています。



安心の条件

- ① お互いが信頼し、紹介し合える医師またはクリニックである
- ② 執刀医が「眼科専門医」である
- ③ 執刀医が、日本眼科学会の指定する屈折矯正手術講習会、および使用機器の製造業者が実施する講習会の両者を受講し、修了証を得ている
- ④ 執刀医および担当医が、レーシック手術だけでなく眼科診療一般の知識を持ち対応ができる
- ⑤ 術前検査と適応の見極め、手術に至るまでのプロセスを、時間をかけて丁寧に正確に行なっている
- ⑥ 術後のフォローアップ（定期健診や合併症の治療）を何度でもきちんとする（患者の目の状態につき、最後まで、生涯におけるフォローを行う）
- ⑦ 原則として、厚生労働省が認可したレーザーをはじめとする医療機器を使用している
- ⑧ 日本眼科学会によるエキシマレーザー屈折矯正手術のガイドラインを順守している



安心LASIK
NETWORK

安心♥LASIK NEWS LETTER 2013.07 Vol.08

—大学病院と眼科専門医のレーシック—

<http://www.safety-lasik.net/>

安心レーシック

ニュースレター安心LASIK NETWORK

LASIK WORK

眼科の先生も
受けているレーシック。
安心と安全には
理由があります。



Topics レーシック—うそ?ホント?— part2

サッカーの本田圭佑選手のレーシックの話題が週刊誌で取り上げられ、ネットにもたくさん書き込まれています。タレントさんのレーシックについても同様、根拠のない情報が氾濫しています。本ネットワークの眼科医師もクリニックのスタッフも皆首をかしげています。著名人になると本当に大変なのです。

改めて「噂(デマ)」について調べてみると、「噂の流布量=話題の重要さ×状況の曖昧さ」なのだそう。*
 多くの方がレーシックに興味がある、そして同時に「目の

手術」ということで不安な気持ちがある、ということの表れでしょうか。

レーシックで顔が変わってしまったり、瞳孔が開いてしまうようなことはありません。また「眼科医はレーシックを受けていない!」などとも噂されていますが、眼科医も眼科クリニックのスタッフもレーシックを受けている人がたくさんいます。ぜひとも正しい情報をお伝えしたいと思います。今号もレーシックの噂について、眼科専門医による回答をお届けいたします。

*ニコラス・ディフォンツォ著『うわさとデマ ロコミの科学』より

最近、ネットでよく見る
レーシックにまつわる疑問・情報について、
ネットワークの眼科専門医の先生方に回答いただきました。



Q1 「レーシック難民」という人たちが、レーシックを受けたら 「物が二重に見える複視や斜視になった」と訴えています、 そのような合併症が起きる可能性はどのくらいあるのでしょうか？

A 「複視」とは物がダブって見えてしまうもので、片目でダブる「単眼複視」と、両目で見るとダブってしまう「両眼複視」に分けられます。片目でダブって見えるのは、主に乱視です。

両目でダブって見える場合は、同時に同じ方向を向けなくなる斜視が考えられます。斜視の多くは眼を動かすための筋肉のバランスの問題で起こります。LASIKで筋肉のバランスが崩れることは考えにくいですが、手術前からあった可能性が考えられます。ただし、偶発的に、頭蓋内疾患（脳腫瘍など）を来し、それが起こる可能性はあります。

以下に斜視と近視にまつわる事例を述べますが、これもレーシック後に起こったとは考えにくいです。

① 内斜視と近視

内斜視に近視を合併している場合、近視を矯正することによって内斜視が顕在化することがあります。一方

で、融像幅（像をひとつに結ぶことができる範囲）が広い場合には、近視を矯正すると両眼視（両目で立体的に物を見ること）がしやすくなり、眼位が改善することがあります。

② 斜位近視

間欠性外斜視（物を見ようとしないうちは外斜しているが、見ようとすれば眼位を正しい位置にすることができるもの）の中には、眼位を保つための融像性輻輳（物をひとつに見ようとして目の位置を内側に向ける働き）に伴い過剰な調節（近くにピントを合わせようとする力）が働き、両眼視時に近視化がみられることがあります。これを斜位近視といいます。斜視を治せば近視は治ります。逆にそのまま近視を矯正してしまうと、結局遠視になって眼精疲労などの原因となってしまいます。

いずれにしても、術前にしっかりと検査を受け眼科専門医の診断を得ることが重要です。

回答：中村 友昭（名古屋アイクリニック）

Q2 レーシック後に近視が戻ってしまったが、再手術ができず、レーシック後は コンタクトレンズも使えないという話を聞きました。本当でしょうか？

A レーシックを受けてもコンタクトレンズは使えます。コンタクトレンズが使えないとおっしゃる方は、レーシックのせいではなく、もともとドライアイがあったなどの別の理由でコンタクトレンズが使用できないのではありませんか。

近視の戻りなどで再手術が必要になる可能性が5

～10%程度あります。しかし、もとの近視の状態に戻ってしまうことはありません。角膜の厚さが薄く、近視が強い方ですと、再手術可能な角膜の厚さを残せないことがあります。なるべく再手術できる余裕を残しておくことが望ましく、また、角膜の安全な強度を保つためにも、手術の矯正量を慎重に決める必要があります。

また、このあたりは、術前の正確なデータと、患者様と十分にお話ししながら手術データを作成する必要があります。レーシック手術そのものは難しい手術ではありませんが、術前の正確なデータと、担当医師とよくコミュニケーションをとることが、手術の結果に影響します。大切なポイントです。

回答：三木恵美子（南青山アイクリニック）

Q3 レーシックで眼球の動きが おかしくなったり、目が見た目に 変わったりしますか？

A レーシックによって、眼の動きや見た目が変わることはございませんので、ご安心ください。むしろ、コンタクトレンズをしていた方は、瞼のたれ（眼瞼下垂）がある方が時々いらっしゃいます。その場合、レーシック後にコンタクトレンズを装用しなくなると眼の開きが大きくなる（ぱっちりみえる）ことがあります。

回答：戸田 郁子（南青山アイクリニック）

安心 LASIK ネットワーク編の 本が発刊されました！



「安心レーシック完全ガイド
～レーシックで後悔しない
ための必読書～」

レーシックはテクノロジーの進歩で
安全性と満足度のきわめて高い

手術となり、世界でメガネ・コンタクトレンズに並ぶ第三の屈折矯正の選択肢となっています。多くの方が快適に過ごされている一方で、一部でレーシックにまつわるトラブルも話題となっています。メガネやコンタクトレンズをなくして裸眼で生活したいと考えている人に、手術を受ける前にぜひ読んでいただきたい、レーシックを安全に受けるためのガイド本です。レーシックの宣伝ではなく、正しい知識を得てほしいという眼科医の思いで制作しました。ぜひご活用ください！

レーシックを受ける前に下記 10 項目を確認しましょう。

10 のチェックリスト！

- 視能訓練士などの眼科検査スタッフが十分な検査を行い、その後、眼科専門医による診察を受け、検査内容と結果について医師からきちんと説明を受けましたか？
- 高度近視の人や、角膜の厚さが薄い人の場合、レーシック以外の術式も選択肢として検討しましたか？
- 術前検査とカウンセリングに十分な時間をもちましたか？レーシックの治療について、十分理解できましたか？
- 年齢やライフスタイル、手術の目的などを考慮した目標視力の設定を、医師と十分に話し合う時間をもちましたか？
- 手術の合併症やデメリットに対する説明を受けましたか？
- はじめての適応検査の後、手術までに一定の日数を空けていますか？
- 手術後、短期のみならず長期にわたる定期検査を行う予定がありますか？
- 執刀医を把握できる診察でしたか？担当医師、執刀医は「眼科専門医」でしたか？
- あなたが不安に思うことを、きちんと質問できましたか？医師はそれにきちんと説明してくれましたか？
- 術後に問題があった場合には、最後まできちんと治療をすることが期待できる施設ですか？

